

そらまめ

◎ 作型と品種

作型	は種期	定植期	収穫期	品種
露地	10／10～10／15	10／下～11／上	5／中～5／下	陵西一寸 仁徳一寸

◎ 土地の選定

乾燥に弱く、特に生育後半の乾燥は種子の充実が悪くなるので、保水力のある壤土が適する。酸性に弱く、中性～微アルカリ性を好む。連作を嫌うため3～4年間隔で輪作する。

◎ 育苗

○ 苗床準備

平床の場合は10a当たり10m²(7cm×7cmには種)
ポット育苗の場合は、10a当たり1,900鉢準備：ペーパーポット(7.5cm×7.5cm)
ポリ鉢(径12cm)

○ は種

は種量 10a当たり8～10g。
(注) オハグロ(へそ)の部分を斜め下にして、種子が上部が地表面に出る程度にまく。

○ 管理

は種後乾燥させないよう、わら・こもなどで被覆。過湿に注意。7～10日後発芽。苗床は白カシレイシャで被覆。

◎ 定植

○ 定植準備

早めに基肥を施用し、肥料の分解をはかっておく。

○ 栽植密度

140cm×45～50cm×1条=1,430～1,587本

○ 定植

ポリ鉢は、は種後25～30日を目安に定植する。根鉢の表面が見える程度に浅植する。
ペーパーポット・普通育苗は、は種後15日、本葉2～3枚を目安に定植する。

◎ 施肥量

施肥	施肥成分量(kg/10a)		
	窒素(N)	リン酸(P ₂ O ₅)	加里(K ₂ O)
基肥	6	20	13
追肥	7	—	7
合計	13	20	20

・堆肥2,000kg、苦土石灰100～150kg施用。

・追肥は2回に分施、2月下旬までに施用。

◎ 管理

○ 主枝の摘心

本葉が4～5枚になったら主枝を摘心して、7～8本確保できたら、主枝を摘み取る。

○ 無効茎の除去

2月下旬頃7～8本の茎を残して、発育の遅れたものを取り除く。

○ 土寄せ・中耕、追肥

1月中旬、3月上旬に土寄せして、倒伏防止と無効茎の分けつを抑える。開花始めから、肩部に追肥し覆土する。

○ 支柱

支柱を立て、マイカーライン等を張り、倒伏を防ぐ。

○ 摘心

草丈1.5m以上になり倒伏の恐れがある場合は、上方20cmを刈り取って頭を軽くする。

○ かん水防寒対策

冬期や、莢の発育期の乾燥に注意し、適宜かん水する。冬場の乾燥防止のため株元にモミガラや切りワラを敷く。また寒害防止のため籠等で風除けする。風除けは丁寧にしつづると軟弱徒長して寒害を受ける恐れもあるので注意する。

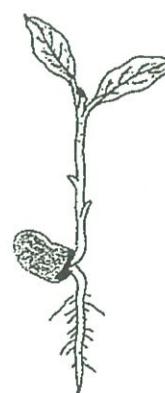
◎ 収穫

莢がやや下向き、子実のふくらみが外観から判断でき、莢に光沢ができる頃。
また、莢を剥いた時にオハグロ部分のへたが容易にはずれ、黒い線が入る頃が適期。

収量目標 1,000kg

野菜生産指針(平成25年3月)を一部編集

平成30年9月、美馬農業支援センター



(豆ひかり N4-P12-K15-Mg6-ケイ酸10, FTE施用)

タキイのソラマメ栽培マニュアル

作型	月	10	11	12	1	2	3	4	5	6
発芽適温						15~25°C (10°C以下と30°C以上では発芽率が悪くなる)				
中間地						発芽の仕方				
暖地						ソラマメの発芽				

適期表記号説明

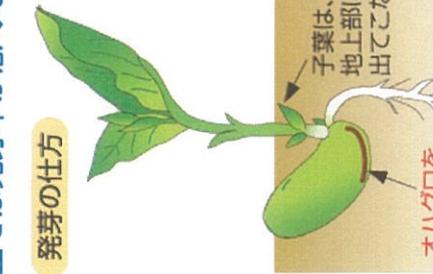
- : タネまき
- : 育苗期
- × : 定植
- : 生育期
- : 収穫期
- : 適宜播種可能

ソラマメの発芽

発芽適温 15~25°C (10°C以下と30°C以上では発芽率が悪くなる)

ソラマメの種子は大きいので、発芽には酸素と水分を多く必要とします。深くまくと酸素不足になりやすいので、よく発芽させることは深くまきすぎないことです。おはぐろを斜め下方に向けて土に挿し込み、種子の尻部が地上に向いているくらいにまくのがよいでしょう。

ソラマメは冷涼な気候を好み作物で、幼苗期の耐寒性は強く、本葉5枚ぐらいまではかなりの低温に耐えられます。また、花芽分化に低温を必要とします。

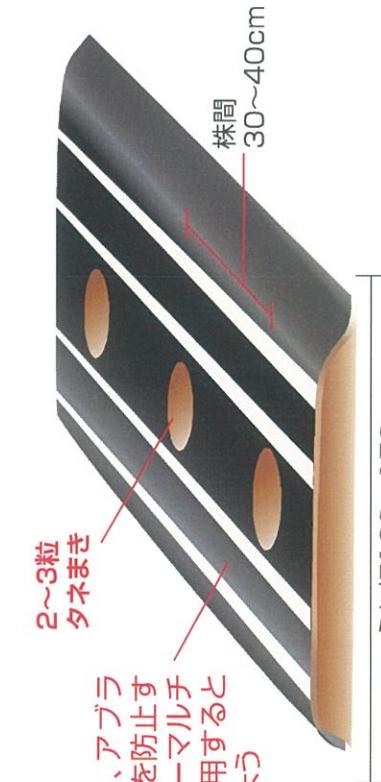


注意



ソラマメの播種(直播)

ソラマメは気温の低下する秋に播種し、耐寒性の強い幼苗で冬を越すようになります。播種の目安は、一般地の露地栽培では10月下旬から11月中旬になります。マルチは雑草を抑え、水分と肥料分を保持する働きがあるのですでぜひ利用するようにしましょう。



マルチは、アブラムシ飛来を防止するシルバーマルチなどを利用するとよいでしょう。

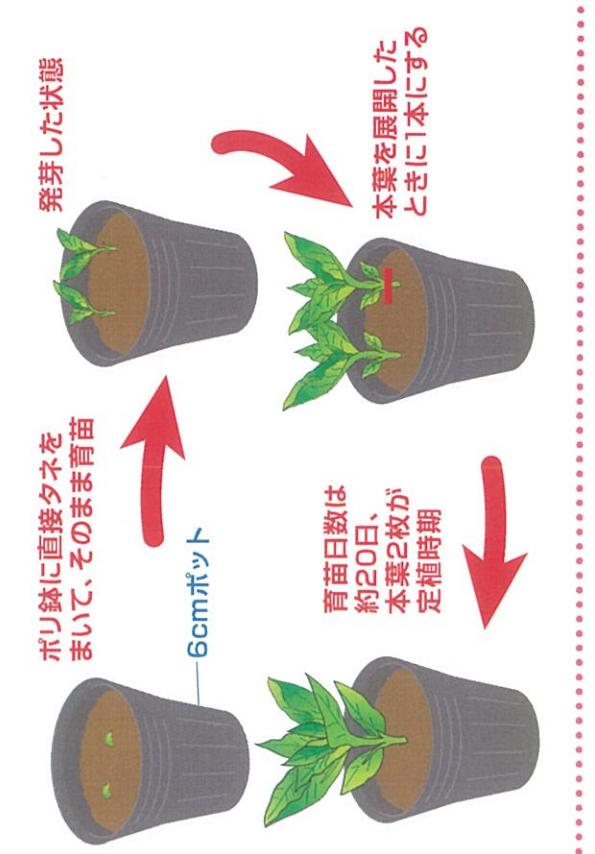


施肥量

元肥は目安として10m²当たり成分量で、チツソ70~100g、リン酸100~150g、カリ100~150gを施用します。特に、リン酸は初期の肥効が耐寒性を高め、根粒菌の着生を助ける働きがあります。

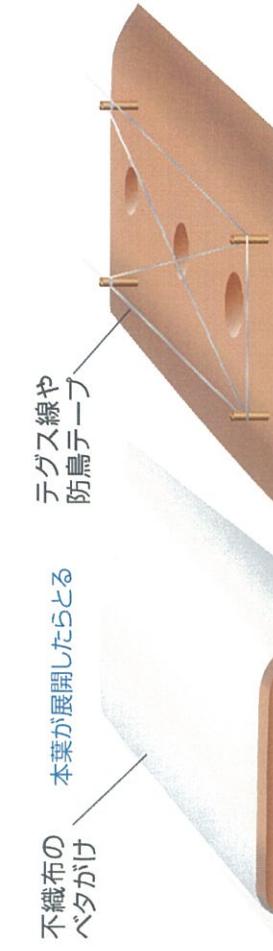
ソラマメのポット育苗

マメ類は播種した後、鳥害が多いので育苗して定植するのもよいでしょう。育苗期間が20日程度と短いので6~9cmポットにまきます。大きくなつたら定植するすると活着が悪くなるので、本葉2枚ぐらいになつたら根鉢をくずさないように定植します。

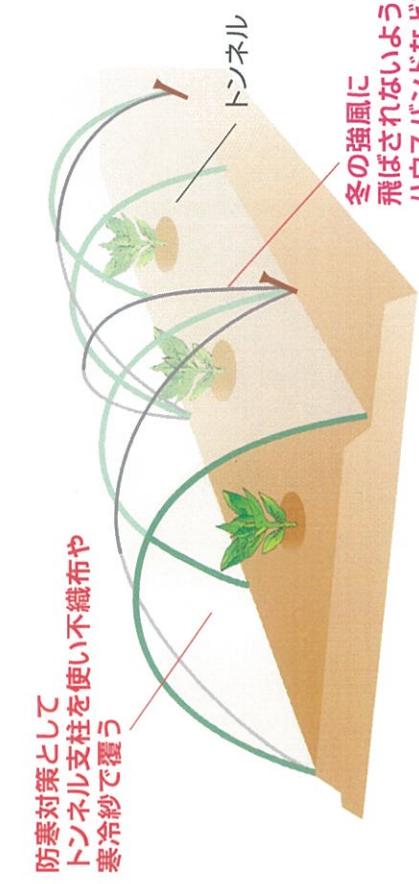


鳥害対策と防寒対策

マメ類は、播種後からの鳥害が多く対策が必要です。特にソラマメは、タネが大きくて栄養が豊富なため鳥害が多く発生します。播種後すぐに不織布をベタがけする方法や、テグス線を使い防鳥するなどの方法があります。



幼苗(本葉5枚まで)は寒さに強いですが、越冬時に大きく育った株は耐寒性が弱くなるので、無理な早まきはしないようにします。適期に播種したものでも、直接霜面にあたると傷みやすくなるので、寒さが厳しくなる12月下旬までにトンネル支柱に不織布や寒冷紗をかけると防寒対策になります。冬は風が強いので、被覆資材が飛ばされないようハウスバンドなどで補強するといいでしょう。



冬の強風に飛ばされないようハウスバンドなどで押さえておくとよい

ソラマメの生育



収穫前の莢



ソラマメの花



生育途中(4月)



分枝(3月)



間引き



発芽

生育適温 16~20°C (耐暑性は弱く、
20°C以上では生育が衰える)

鳥害を防ぎ、発芽をよくする
ため不織布のベタがけを行
うとい

発芽がそろつたら
ベタがけをとる

越冬
防寒対策

シルバーテープ

支柱

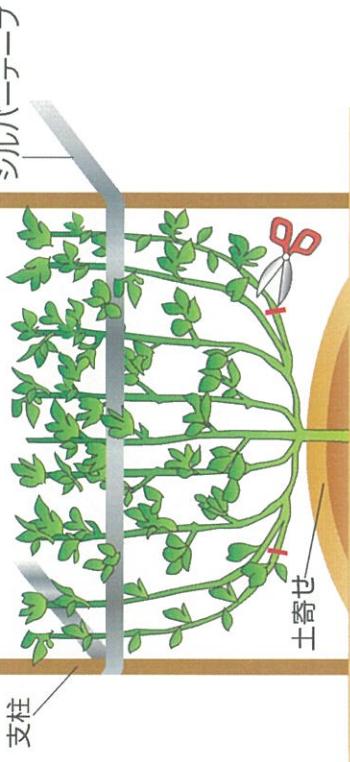
整枝と誘引

【整枝】

通常1株から10~15本の側枝が伸びてきます。草丈が50~60cmに伸びてきましたら、太い枝を残して6~7本に枝を整理します。

【支柱立てと誘引】

株が大きく広がるのを防ぐため、株から少し離して四隅に支柱を立て、ひもで周囲を囲んで押さえます。アブラムシの飛来を少なくするために、シリバーテープも使用するとよいでしょう。



弱い枝を整理して、生育のよい強い枝を残す

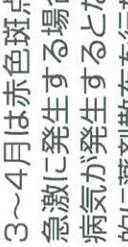
収穫

【収穫】

上を向いていた莢が下に垂れ、背筋が黒褐色になつたら収穫どきです。莢を触って大きな豆が確認できたら、ハサミで摘み取ります。試し割りをしてみて、オハグロの部分が黒くなる前が収穫適期です。



↑赤色斑点病



↑アブラムシ



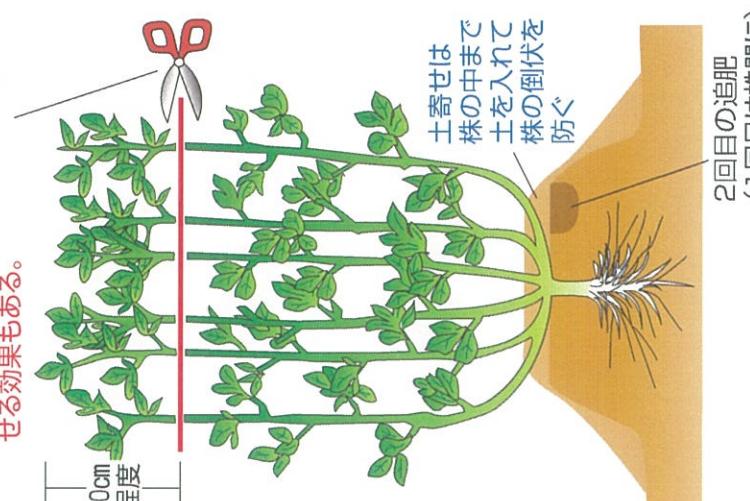
↑黒褐色斑点病

連作障害

ソラマメやエンドウのマメ類は、連作を極端に嫌うため3~5年以上あけて栽培するようにします。連作をするといいや地現象のため立枯病などが発生しやすくなり、前年より生育が極端に悪くなり収量が激減します。

追肥と土寄せ

茎が伸びすぎて倒れそうになつたら、先端の茎葉20cmを切り取つておく。新芽につきやすいアブラムシを軽減させる効果もある。



2回目の追肥 (1回目は株間に)

ソラマメの病害虫

ウイルスが有翅アブラムシにより伝播され、葉にモザイク症状やえそ症状を生じるのがモザイク病です。アブラムシは、10~12月にかけて温度が高く雨の少ない年に多く発生し、生育初期や育苗時における飛来防止が重要になります。気温が上昇する4~5月は特に多くなり、短期間で増殖した場合は殺虫剤での防除が必要です。



↑モザイク病



↑えそ病



↑黒褐色斑点病